

令和4（2022）年度 長岡大学シラバス

授業科目名 科目コード	大学を飛び出して地域を知ろう Introduction to Field Work) 2013021-053					担当教員	複数人		
科目区分	教養科目	必修・ 選択区分	必修	単位 数	1	配当年次	2年次	開講期	前期
科目特性	地域志向科目／協同学修型 AL								

① 授業のねらい・概要									
以下の二つを目的とした授業である： (1) 地域の企業や公的団体などの組織に対して、グループワークによる調査研究の基本的なステップを習得する。 (2) 地域に対する理解と関心を深める。									
② ディプロマ・ポリシーとの関連									
地域社会に貢献する姿勢／職業人として通用する能力／専門的知識・技能を活用する力／コミュニケーション能力／情報収集・分析力									
③ 授業の進め方・指示事項									
<ul style="list-style-type: none"> ・本授業は1クラス20名前後の6クラス編成とし、各クラスに担当教員を配置する。 ・クラスごとに教室を分けて授業を実施するが、複数のクラス合同授業も2回実施される予定。 ・各クラス内で前半・後半の2回に分けた2クールの調査に取り組む。 ・外部講師を招いて地域をテーマに講義をしていただく特別授業（2回予定）では、3つの教室に分かれて受講する。これをヒアリング調査の現場に見立て、調査の事前準備や事後処理についてグループワーク等を行い、「組織調査シート・Q&Aシート・議事録シート・調査まとめシート」（すべてが一体のプリント）を取りまとめて提出する。 ・「組織調査シート」等の内容は、各クラス内でグループごとに発表し、クラス内での情報共有とプレゼンテーション技能の向上を図る。 									
④ 関連科目・履修しておくべき科目									
「ゼミナールⅠ（前）」「ゼミナールⅠ（後）」									
⑤ 評価Aに対応する具体的な学習到達目標の目安									
<ul style="list-style-type: none"> (i) 調査研究の基本的なステップを理解して実践できる。 (ii) グループでの調査研究活動を実施できる。 (iii) 地域の組織についての調査の成果・気づきを発表できる。 									
⑥ テキスト（教科書）									
山田剛史・林創（2011）『大学生のためのリサーチリテラシー入門—研究のための8つの力』ミネルヴァ書房									
⑦ 参考図書・指定図書									
必要に応じて随時紹介する									

⑧ ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	S 到達目標を越えたレベルを達成している	A 到達目標を達成している	B 到達目標達成にはやや努力を要する	C 到達目標達成には努力を要する	D 到達目標達成には相当の努力を要する
(i) 調査研究の基本的なステップ	調査結果をもとに、授業で解説した水準を超える内容の調査シートを作成できる	調査結果をもとに、十分な水準の内容の調査シートを作成できる	調査結果をもとに、教員の指示に従い改善作業を経て、十分な水準の内容の調査シートを作成できる	調査結果をもとに、教員の指示に従った改善作業を経て、さらに教員の直接の支援を受けることで、十分な水準の内容の調査シートを作成できる	調査結果をもとに、教員の指示に従った改善作業を経て、さらに教員の直接の支援を受けても、十分な水準の内容の調査シートを作成できない
(ii) グループでの調査研究活動	グループワークで、調査活動を発展させるような建設的な発言や行動が積極的にできる	グループワークで、積極的な発言・行動を行い、調査活動の推進に寄与できる	グループワークで、調査活動に関連した発言・行動を自主的にできる	グループワークで、指名されることで、調査活動に関連した発言・行動ができる	グループワークに参加しない。参加した場合でも、指名されても調査活動に関連した発言・行動ができない
(iii) 地域の組織の調査成果・気づきの発表	自身の(またはグループ全体の)調査活動に基づいて、授業で指導した水準を超える内容のスピーチを準備し、資料類の参照なしに発表できる	自身の(またはグループ全体の)調査活動に基づいて十分な内容のスピーチを準備し、資料類の参照なしに発表できる	自身の(またはグループ全体の)調査活動に基づいて十分なスピーチを準備し、資料類の参照をしながら発表できる	自身の(またはグループ全体の)調査活動に基づいて最低限の内容のスピーチを準備し、資料等を参照しながらかつ教員の助言も受けることで、発表できる	自身の(またはグループ全体の)調査活動に基づいて最低限の内容のスピーチを準備できない。または準備できた場合でも、資料等を参照しかつ教員の助言を受けても発表できない

⑨ 学習の到達目標（評価項目）とその評価の方法、フィードバックの方法								
学習到達目標（評価項目）	試験	小テスト	課題	レポート（シート）	発表・実技	授業への参加・意欲	グループ内相互評価	合計
総合評価割合				50%	25%	15%	10%	100%
(i) 調査研究の基本的なステップ				40%				40%

(ii) グループでの調査研究活動				10%		15%	10%	35%
(iii) 地域の組織の調査成果・気づきの発表					25%			25%
フィードバックの方法	提出された「組織調査シート等」についての評価はフィードバックする。							

⑩ 担当教員からのメッセージ（昨年度授業アンケートを踏まえての気づき等）	
・今年度は感染症対策のため、大人数での移動を伴う現地調査を避け、学外の組織から講師を招へいた特別授業での講話と質疑応答によりヒアリング調査の代替とする。	

⑪ 授業計画と学習課題			
回数	授業の内容	授業外の学習課題と時間（分） （※特別な持参物）	
1	オリエンテーション： 授業概要の説明、グループ分けと調査対象組織（第一クール）の決定、組織調査シートの作成準備	調査対象組織の情報収集、組織調査シートの作成	90分
2	各自の組織調査シートのグループ内共有、個人Q&Aシートの作成準備	個人Q&Aシートの完成	90分
3	個人Q&Aシートのグループ内共有、グループの質問事項の洗い出し、グループQ&Aシートの完成	追加的な情報収集による組織調査シートとQ&Aシートの改善	90分
4	ゼミ内での各グループによる調査結果と質問項目の発表、グループ間の質疑応答、質問項目の見直し	グループ内討論の結果の振り返りと組織調査シートとQ&Aシートの改善・完成	90分
5	調査対象組織から講師を招へいた特別授業の開催（3つの教室に分かれて3講師の講話を聴講した後に質疑応答）	講話の議事録の作成、他グループのQ&Aの確認	90分
6	各自の議事録のグループ内共有、グループQ&Aのまとめ、翌週のゼミ内発表の準備	組織調査シートと議事録シートの見直し、調査まとめシートの完成、グループの発表資料（PowerPoint等）作成、個人別発表内容の確認	90分
7	ゼミ内での各グループによる講話とQ&Aを踏まえた調査結果の発表、個人の調査結果と気づきの発表（前半）、「組織調査シート等」の提出	授業内容振り返り、個人別発表内容の確認	60分
8	個人の調査結果と気づきの発表（後半）、調査対象組織（第二クール）の決定、組織調査シートの作成準備	調査対象組織の情報収集、組織調査シートの作成	90分
9	各自の組織調査シートのグループ内共有、個人Q&Aシートの作成準備	個人Q&Aシートの完成	90分
10	個人Q&Aシートのグループ内共有、グループの質問事項の洗い出し、グループQ&Aシートの完成	追加的な情報収集による組織調査シートとQ&Aシートの改善	90分

11	ゼミ内での各グループによる調査結果と質問項目の発表、グループ間の質疑応答、質問項目の見直し	グループ内討論の結果の振り返りと組織調査シートとQ&Aシートの改善・完成	90分
12	調査対象組織から講師を招へいした特別授業の開催（3つの教室に分かれて3講師の講話を聴講した後に質疑応答）	講話の議事録の作成、他グループのQ&Aの確認	90分
13	各自の議事録のグループ内共有、グループQ&Aのまとめ、翌週のゼミ内発表の準備	組織調査シートと議事録シートの見直し、調査まとめシートの完成、グループの発表資料（PowerPoint等）作成、個人別発表内容の確認	90分
14	ゼミ内での各グループによる講話とQ&Aを踏まえた調査結果の発表、個人の調査結果と気づきの発表（前半）、「組織調査シート等」の提出	授業内容振り返り、個人別発表内容の確認	90分
15	個人の調査結果と気づきの発表（後半）、授業全体の振り返りとまとめ	授業内容振り返り	60分

⑫ アクティブラーニングについて	
協同学修型 AL	
<ul style="list-style-type: none"> ・グループワークにより「組織調査シート等」を作成する。 ・第一クールと第二クールの2回の調査において毎回グループ内の役割分担（進行、発表、記録、質問、文書作成等）を変更し、できるだけ異なる役割を体験できるように考慮する。 	

※以下は該当者のみ記載する。

⑬ 実務経験のある教員による授業科目
実務経験の概要
実務経験と授業科目との関連性